

新成人

二十歳の声



一人ひとりが「ずく」を出し、自分のすべきことをしよう

高木 清香さん

私は今、新春の陽光に満ちたこの佳き日に、皆様と共に、ここに集えた喜びでいっぱいです。今年の冬は、例年よりも少し暖かく、過ごしやすいように思いましたが、やはり、早朝は懐かしい堅氷の寒さでした。凍り付いた窓をこじ開けると、肌を切る張りつめた冷気。冬枯れの木々は、夜に降りた霜で白銀に染まり、朝日を背に受けた仙丈の峰が茜色に輝いている。どこかで始まった野焼きの匂いが、一日の始まりを告げる。

私は今、慣れ親しんだ故郷の風景が、愛しくてなりません。2011年3月11日、日本は、世界は、大きく変わりました。繋がらない携帯電話を片手に見た、渋谷の大型ビジョンの光景が、脳裏に焼きついて離れません。あの地に築かれた人々の足跡が、一瞬で飲み込まれていくのです。東北地方、北関東にとどまらず、長野県内でも栄村での大きな被害、福島原発事故による、得体の知れない恐怖は、今なお続いています。

私は震災を期に自分が持つ、故郷への強い思いに気がつきました。親元を離れ、不慣れな都会生活の中で、たまに会う懐かしい友人との会話に心を躍らせる事、悩み迷った時、家族からの何気ない電話に、何度も救われる事、村へ帰るバスの窓から見える風景に、心から安堵する事。

私は、この村に大切な物をすべて置いてあるのです。だから私たちは守らなければなりません。皆の暮らすこの故郷を、未来を担う子どもたちが、のびのびと成長できる故郷を、村を離れる人々の、帰る場所である故郷を。それは、この地に守られ、育まれた私たちの使命です。新たな年がやってきました。2012年、私は希望の年だと信じています。深い、深い、悲しみの後には、明るい光が差すと信じています。そして、この年に成人を迎えた私たちは、その先陣、復興への第一歩を踏み出す世代です。

まずは、自分のすべきことをしよう、社会の一員として、自分に何ができるのか、私たち一人ひとりが「ずく」を出して行動すれば、おのずと故郷を、日本を元気づける力になるはずです。(成人式意見発表より)



人が成長できるのは困難を乗り越えたとき

木村 亮さん

今日晴れて成人の日を迎えることができましたのも、私たちが指導して下さった先生方や常に支えて下さった家族のおかげと改めて感謝するとともに、私たちを激励して下さった地域の皆様にも感謝申し上げます。

これからは1人の大人として社会と向かい合っていくことになります。昨年は東日本大震災が発生し、日本に多大な被害をもたらしました。それに加えて、記録的な円高による景気の悪化や長引く就職難など現在の社会に対する不安は非常に大きいです。しかし人が成長できるのは困難を乗り越えたときだと私は思います。スポーツや学問など、どの分野で成功を収めた人でも数々の苦難を乗り越えてきたはずです。私たちも周りに流されない心を持ち、困難を乗り越えるべく、日々精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、成人になったといっても一人前とは言いがたく、社会経験の浅い未熟な私たちです。社会の厳しい洗礼にじけてしまうこともあるかもしれませんが、そんな時は地域の皆様、そして父母の皆様にお力添えしていただきますようお願いしたいと思います。どうか、これからも温かい目で私たちを見守っていただければ幸いです。(成人式謝辞より)



新成人から寄せられたコメントの一部をご紹介します。

- 改めてスタート地点に立ったと思い、がんばっていきたいです
- 木を見て、森も見る、そして人も見れる大人になりたい
- 自分の行動に責任を持つ!
- 村で育った日々を感謝して過ごせるような人間になりたい
- 人と人のつながりを大切にしていきたい
- タバコはやらない。お酒はほどほどに
- 歩行者を優先できる運転者になりたいです
- 責任感を持って行動できる人間になりたい
- 勉学に励み、将来的な社会貢献の準備をする
- 20年間見守り続けてくださった両親、母校、すべての方々に感謝の心でお応えし、世界中の人々の幸福と平和の実現していくために、さらに学びぬく決意です
- 今まで通り、笑顔を絶やさず、毎日幸せに生きたいです
- 高齢者、障害者の方々が安心して暮らすことができる地域福祉の活性化を望みます
- 国家試験に向けて今まで以上に気合を入れて頑張っていきたい
- 夢を叶える!そして南箕輪村にお店を出したい

